

文章の始まりが見えないときは下に少しスクロールしてください。



---

### かまくらみち

山王塚から原店、二ツ橋へと続く峰道を、通称「かまくらみち」という。

峰道とは山または丘の稜線上の道のことで、分水嶺ともなっている。

この「かまくらみち」を分水嶺として、東側に流れる水が阿久和川に注ぎ、西側に流れる水が和泉川に注ぐ。

ところで、「かまくらみち」鎌倉を発し東、北、西へと数十条の道が各所へ網の目のように張られている古道である。

「いざ、鎌倉」というフレーズがあるが、鎌倉に大事が起こると、鎌倉幕府の御家人がこの道を通して鎌倉へ馳せ参じたところから生まれた言葉である。

「かまくらみち」は大きく分類すると、「上の道」「中の道」「下の道」の3本が幹線で、それらの道から何本もの枝道が分かれている。

「中の道」「下の道」は省略するとして「上の道」は、鎌倉の化粧坂から藤沢東部に出て俣野に至り、境川沿いに北上し関戸で多摩川を渡り武蔵・上野（こうずけ）・信濃善光寺方面へと通ずる道である。

「上の道」をもう少しローカルに説明すると、俣野観音堂前から和泉町南部に入り和泉川の鍋屋橋を渡り、下飯田東泉寺前を通り上飯田に入る。さらに長後街道と交差し、上飯田の西部を境川沿いに北上し下瀬谷に至る。

鎌倉時代の末期、新田義貞が鎌倉攻めの時、上野国から南下しこの道を進軍したと伝えられている。

また、もう少し古い話として、日蓮上人が身延山を出で生涯最後の旅として池上へ向かった時（弘安5年）にも、この道を通ったといわれている。

さて、阿久和を通る「かまくらみち」はどうなっちゃったのということであるが、実を言うとこちらの方が「かまくらみち」と事実地図にも堂々と記されていて、飯田を通る道より有名なのである。

しかして、一体全体なにが正しくなにが間違いなのか、そのルートを探ってみることにした。

正しいかどうかは別にして、この道は鎌倉の巨福呂口から大船に出て、柏尾川沿いに長尾台から県道原宿六浦線に入り、原宿に至り深谷三叉路を右折し、米軍深谷通信隊を経て立場を突っ切り、中田・和泉をまっすぐに進み、阿久和・二ツ橋へと続いている。

鎌倉の巨福呂口から出る道は、一般的には「かまくら中の道」といわれている。「中の道」は、巨福呂口から山内に出て狹川を渡り、舞岡・柏尾・二俣川を経て府中に至るといふ道筋が比定されている。

であるとすれば、この阿久和を通る「かまくらみち」は「中の道」の枝道ということになりいま流に言えば「中の道」のバイパスということになる。

したがって、この道を「かまくらみち」と称することは間違いではないということになる。

さらにもう一本、先の鍋谷橋から「中和田南小学校」に至り、和泉町と下飯田・上飯田の町境を北上し和泉坂上で長後街道と交差し上飯田大塚、そして南瀬谷に至る道を通称「たつみち」といい、これも「かまくらみち」といわれている。

「たつみち」意味不明であるが、いまの環状4号線である。

いずれにせよ「かまくらみち」という古道は各所に存在し、いまのように道路番号が付されているわけでもないので、起点と終点の大まかなことは、わかっている、その道筋がどうであったかは全く以て不明な点が多く、それ故、誰それが鎌倉へ行く道も狭義には「かまくらみち」である。

古道研究という趣味を持つ人達にとってはその不明の部分を、ああだ、こうだと想像することに無類のロマンを感じているそうであるが、ハッキリしないことに興味を持つことはボケ防止にも素晴らしい効果があるに違いない。